

社団法人日本新体操連盟

平成19年度第2回理事会議事録

1. 会議名： 平成19年度第2回理事会
2. 日時： 平成19年12月11日(木)19時00分～21時10分
3. 場所： 東京都港区西麻布3-2-32 「麻布霞会館・202号室」
4. 構成員現在数： 21名
5. 出席役員： 二木 英徳(会長) 朝倉 正昭(副会長) 福本 隆(副会長)
渡辺 守成(常務理事) 池田真喜子(理事) 谷口 裕代(理事)
橋本 千波(理事)
山崎 浩子(理事) 田中 元(監事) 上村 郁子(理事)
関田史保子(常務理事) 石崎 朔子(常務理事) 谷原 誠(理事)
高橋 明(副会長) 横田 章(監事)
以上15名(うち委任状出席8名)
6. 欠席役員： 荒井 隆(専務理事) 秋山エリカ(理事) 岩本 晃(理事)
岡 久留実(理事) 崇島 慎一(理事) 藤島八重子(理事)
以上6名

7. 議案：
報告事項
報告事項1 第16回全日本新体操クラブ選手権・大会実施報告
(定款第5条関連事項)
報告事項2 第7回全日本新体操クラブ団体選手権・大会実施報告
(定款第5条関連事項)
報告事項3 第8回日本新体操祭・大会実施報告(定款第5条関連事項)
報告事項4 イオンカップ2007世界新体操クラブ選手権・大会実施報告
(定款第5条関連事項)

決議事項

- 第1号議案 平成20年度事業計画について(定款第5条関連事項)
第2号議案 全日本チャイルド選手権・得点配分について(定款第5条関連事項)
第3号議案 バッジテストについて(定款第5条関連事項)
第4号議案 その他

8. 議事の経過及び結果

(1) 議長による開会宣言

(社)日本新体操連盟・定款第24条第2項の定めにより議長を会長二木英徳がつとめ、開会宣言を行った。

(2) 議事録署名人の選出

定款第32条により、議長は議事録署名人を谷口裕代理事と池田真喜子理事にする事を議場に諮り承認された。

(3) 定足数の確認

定款第25条の定めにより、理事会出席者数委任状含めて15名であることが池田理事より告げられ、議決定足数を満たしている事が報告された。

(4)あいさつ

議長は二木会長が年度最後の理事会であることということで年末の挨拶と来年の新体操の発展を願ってあいさつとした。福本副会長が進行を務めるよう依頼した。

(5)報告事項

1 第16回全日本新体操クラブ選手権・大会実施報告(定款第5条関連事項)

議長は説明者として池田理事を指名し、池田理事は下記内容の説明を行った。

大会が8月11日から14日まで「千葉ポートアリーナ」で開催された。今回は例年開催していた「東京体育館」が優先予約で取れなかったため、「千葉ポートアリーナ」での開催となった。会場が変わったにも関わらず、前回大会の206クラブ618名を上回る、過去最多の214クラブ642名の参加者で開催できたことは喜ばしいことであった。

大会練習日の8月11日が「関東ジュニア選手権大会」と重なったため、練習、手具点検が出来なかった選手、審判会議に出れない審判が発生したため、翌日に手具点検、簡易型審判会議を行う等柔軟に対応した。また、参加者からはお盆時期での開催との事で「宿泊交通費がかかる」などお声を頂いており、今後は日程が重ならないように注意する必要がある。

会場では「東京体育館」に比べ会場が狭いため、「練習スペースがない」「時間が少ない」などお声を頂いており、大規模会場での開催の必要性が感じられた。また、「千葉ポートアリーナ」では減免措置が適用されないため使用料が安くなく、今後の検討材料とする。

質疑・報告

1. 二木会長開催時期と場所が例年と異なった理由が尋ねられ、池田理事が体育館から「1日ずれて欲しい」とあったが1日ずれることにより他の新体操大会と重なったこと、「代々木体育館」のアスベスト問題により「東京体育館」に予約が殺到したこと、体操種目での「東京体育館」利用が多くなったことによる変更であった旨が報告された。

2. 福本会長より会場で参加者から練習場所が少ないことのメッセージを受け、現況を説明して納得をして頂くよう伝えたが大会参加者の欲求がより高くなってきていることが報告された。渡辺理事からは他の新体操大会でも参加者が会場時間を守らない等新体操界のマナーの低下が報告された。橋本理事より参加者の立場としては人数が多くてルールで決められているのは理解できるのだが参加クラブ単体で考えるとやはり練習時間、場所が少ないのも事実と思われることがあると指摘され、今後は大会を開催するに当たり、より改善を目指していくが、参加者のマナー向上も目指していくこととなった。

2 第7回全日本新体操クラブ団体選手権・大会実施報告(定款第5条関連事項)

議長は説明者として池田理事を指名し、池田理事は下記内容の説明を行った。

大会は9月9日「クラブ選手権」と同じく「千葉ポートアリーナ」で開催された。近年参加者が増え過去最多の114チーム724名の参加者が集まった。

会場では団体競技という特徴上、個人競技より練習スペースを必要としているため、「クラブ選手権」以上に練習スペースが必要となり、練習禁止区域での練習が目立った。また、現行の競技進行方式では時間的に最大限となっているため、次年度以降参加者が増える際は進行方式を変更することが必要である。

質疑・報告

1. 二木会長より、「幕張メッセ」などの大会場で開催は出来ないのかと質問がでた。渡辺理事より開催は可能であることが説明された。池田理事からは開催は出来るが会場費が上がり、収支バランスを考慮しないといけないことが指摘された。また、谷口理事より予選・決勝方式にするのであれば審判団がD2名、A2名、E3名で構成することも可能であり、今後の進行方式変更の検討材料とすることとした。

2. 谷口理事より会場の練習場所についてメインアリーナ競技フロアの両サイドを練習スペースとして利用しても良いのではないかと提案があり、今後会場や参加人数などによって検討していくこととなった。
3. 橋本理事より審判員の昼食時間などを考慮して競技のスタートをもう少し早められないものかと提案があり、池田理事より第7回大会では朝に開会式、その後アップ練習の時間を設けたため11時ごろのスタートとなったことが説明され、次年度以降検討することとなった。

3 第8回日本新体操祭・大会実施報告(定款第5条関連事項)

議長は説明者として池田理事を指名し、池田理事は下記内容の説明を行った。

大会は「イオンカップ2007」の中日10月6日土曜日に48チーム1662名の参加者で開催された。先日の総会で出席者より練習が必要であることが言われていたため、練習時間を設け朝8時開場で対応した。毎年恒例のトップ選手との写真撮影会では、撮影場所を2箇所設け、時間の短縮を行うことが出来た。

質疑・報告

1. 谷口理事より写真撮影が2箇所で行ったことは参加者としても楽になり大変良かったことが報告された。
2. 福本副会長よりこの大会は年を追う毎に派手になり、参加者も楽しそうで良いことであると感想が述べられた。

4 イオンカップ2007世界新体操クラブ選手権・大会実施報告(定款第5条関連事項)

議長は説明者として池田理事を指名し、池田理事は下記内容の説明を行った。

大会は10月5日から7日の3日間15カ国17チーム51名を集めて開催された。9月に世界選手権が開催され、来日メンバーは世界選手権後に来日準備を開始するため直前での変更等が相次いだ。テレビ視聴率は昨年と比べ低調であったことが報告された。

質疑・報告

1. 渡辺理事より、TV放映の時間帯で強力ライバルが増えたことが視聴率の低迷につながったことが報告された。福本副会長よりこの時間帯は全体シェアがもともと低いため視聴率が上がることが難しいことが指摘され、二木会長から毎年この時間帯にしか放映しない代理店、テレビ局が新体操の発展を本気で考えているのか疑問に思うことが指摘され、もし発展を考えていないようであれば放映方法の変更も検討することとなった。
2. 渡辺理事より、「イオンカップ」での難民支援の行動が認められ、国際体操連盟より国際フェアプレイ委員会へ二木会長を推薦し、表彰されることとなったことが報告された。

第1号議案 平成20年度事業計画について(定款第5章関連事項)

議長は説明者として池田理事を指名し、池田理事は下記内容の説明を行った。

来年度の現行の主な予定として

- 8月 29～31日 クラブ選手権(東京体育館)
- 9月 13～14日 団体選手権(東京体育館)
- 10月 10～12日 イオンカップ(東京体育館)
- 10月 11日 新体操祭(東京体育館)
- 12月 西日本チャイルド選手権(北九州メディアドーム*検討中)
- 1月 東日本チャイルド選手権(駒沢体育館*検討中)
- 2月 27日～3月 1日 全日本チャイルド/キッズコンテスト(東京体育館)

であることが説明された。

質疑・報告

1. 渡辺理事より東西チャイルド選手権を開催することは全国及び地域の新体操の普及という面で開催する意義があることが説明された。
2. 池田理事からの全日本チャイルドへの予選通過人数について検討依頼があった。朝倉副会長より以前参加を自由にした大会では人数が多くなりすぎてパンクしたことがあった事が報告され、二木会長から出場権をクラブ単位で獲得することなど提案された。人数については「全日本チャイルド」の開催方法、受け入れ可能人数をシュミレーションし、そこから人数を決定することとなった。
3. 福本理事より地域の活性化という点では東日本チャイルドを他の地域で開催することの提案があり、場所、施設、交通宿泊の便など考慮し、宮城県での開催が候補に挙がり、施設の予約状況などによって検討することとなった。

第2号議案 チャイルド選手権得点配分について(定款第5章関連事項)

議長は説明者として池田理事を指名し、池田理事は下記内容の説明を行った。

前回理事会において「チャイルド選手権」の3・4年生の部において1点に満たない選手が多く出たため得点方法を検討することとなっていた。現時点では参加点を5点プラスし25点満点とすることで案内をしている。但しこの案内は変更が出ることを説明してある。この得点配分で良いのか、それとも変更したほうが良いのか審議いただきたい。

質疑・報告

1. 渡辺理事から通常の満点といえば10点か100点であるためそのように調整することの提案がでた。橋本理事より世界の新体操は20点満点方式を採用していることが説明され、優勝者の得点も6点台であることを考慮し、D.E評価とM評価を2倍の得点にすること、満点表示をなくすこととなった。
2. 二木会長及び渡辺理事より高い難度を行うことで減点されてしまう事があることは選手の成長をルールで止めることとなり、小さいころからチャレンジすることは大切なのではと、難度に関して減点をなくすことが提案された。ルールの説明として橋本理事より、減点項目は禁止難度と構成やタイムなどであること、また、このルールは審判員のレベルアップも目指しているものであることが合わせて説明された。世界に通じる選手の育成を目標とするため、海外や体操の例を参考に禁止難度について再度競技に詳しい理事たちにより検討されることとなった。

第3号議案 バッジテストの開催について(定款第5章関連事項)

議長は説明者として橋本理事を指名し、橋本理事は下記内容の説明を行った。

バッジテストの目的として全国的な基礎技術の浸透すること、テストの段階は8段階で1から5までは愛好者対象、6から8までは選手対象であること、このバッジテストで「チャイルド選手権」など選手権への出場資格制度を設けようとしていることを説明した。

質疑・報告

1. 二木会長より飛び級制度の有無、またチャイルド選手権に出場するための資格を得るのに要する時間が質問された。橋本理事は飛び級制度が無いこと、チャイルド選手権に出場する技術を得るためには半年くらいで得ることができる内容であることが説明された。
2. 渡辺理事より最初の階級は「新体操は楽しい」「次の級も取りたい」と思うような内容であってほしいとの要望から、最初の級を基本姿勢のチェック等初歩的なことで作成することとなった。合わせて第1回バッジテストをチャイルド選手権で開催するよう進めることとなった。

第4号議案 その他

議長は議場にその他議案が無いか確認したがその他の議案は出なかった。

(6)閉会宣言

議長は他に質問、意見がないこと及び次回理事会が3月6日を予定することを確認し、理事会の終了を宣した。

この議事録が正確であることを証するため、議長ならびに議事録署名人は次に署名押印する。

平成19年12月11日

社団法人 日本新体操連盟 平成19年度第2回理事会

議長 二木 英徳

議事録署名人 谷口 裕代

同 池田 真喜子